

平成29年度 事業報告書

1. 実施概要

平成29年には、7月に九州北部豪雨、9月に台風18号(道内では北海道管理河川を中心に被害が発生)、10月に台風21号による豪雨災害があった。特に九州北部豪雨では、梅雨前線と台風3号により線状降水帯が形成され、福岡県朝倉市付近では1時間で169mm、9時間で778mmの雨量が観測され、中小河川の氾濫等により甚大な被害が生じた。同じ場所で豪雨が継続する線状降水帯は、平成28年8月の北海道・東北豪雨災害の際にも見られたが、近年日本各地で発生が確認されており、これまでの想定を超えるような豪雨災害が続いている。

頻発する豪雨災害を踏まえて、平成29年6月には水防法が改正され、これに基づいて、新たな法定協議会として、北海道管理区間、札幌市管理区間(石狩川下流域のみ)にも対象河川を拡大した「減災対策協議会」が、石狩川上流域、石狩川下流域で各々設立されるとともに、これまで国管理区間のみを対象としていた「減災に関する取組方針」が範囲を拡大して改定され、減災に向けたハード・ソフト対策を、一体的・総合的・計画的に取り組むこととされた。減災の観点から、河川管理者である国、北海道及び札幌市、避難勧告等を行う市町村が連携するだけでなく、避難勧告等を受けた住民が実際に避難することが不可欠であり、いざという時に動けるように、住民、地方自治体、国の機関が普段からコミュニケーションを重ねる場を作ることがさらに重要になっている。

一方で、国においては、平成29年に川の魅力を活かしたツーリズムとして「かわたび北海道」の推進を打ち出し、「かわまちづくり」による水辺空間の整備、河川を利用した観光コースの整備の推進等を図っている。また、石狩川流域46市町村長で構成する石狩川流域圏会議では、会議設立時からサイクルツーリズムの推進を図ってきたが、国の道路サイドにおいても、平成29年から北海道全体のサイクルツーリズム推進に着手し、石狩川流域圏会議が主体となった「石狩川流域圏ルート(石狩川の堤防等を走りながら新千歳空港から旭川空港を結ぶルート)」が、北海道全体5ルートの一つに位置づけられた。

このような中であって、石狩川振興財団は、各市町村やNPO、市民団体及び河川管理者と連携して、安全で潤いのある流域の実現を目指して、平成29年度の事業を実施してきたところである。平成29年度においては、公益目的事業として計画額(22,200千円)を上回る26,561千円(前年度比120.2%)を実施した。また、受託事業として521,620千円(前年度比111.1%)を実施し、当期一般財

産正味増減額は 38,656 千円増（前年度比 100.2%）となった。

平成 29 年度に実施した事業は次のとおりである。

2. 公益目的事業

(1) 流域振興事業

- ① 川に関する情報や、川を軸としたまちづくりに関する情報交換を行うことを目的に、当財団が運営している「市町村河川情報委員情報交換会議（石狩川流域 46 市町村の担当部・課長で構成）」を、平成 29 年 10 月 19 日に開催した。今年度は、平成 28 年 8 月の豪雨災害以降、北海道開発局、北海道、気象台が取り組んでいる施策について情報共有するとともに、新たな取組である「かわたび北海道」、「北海道のサイクルツーリズム」について情報提供を受け、市町村から取り組んでいるイベント等の事例が紹介された。

また、市町村に有意義と考えられる国土交通省、北海道開発局関連の情報を、「市町村河川情報委員ニュース」として、月に 1 度定期的にメール配信した。

- ② 石狩川流域市町村の連携を目的とする「石狩川流域圏会議」（平成 23 年度設立、石狩川流域の全 46 市町村長で構成）への協力・支援を行った。また、流域圏会議が主催して、平成 29 年 7 月 27 日、28 日に、滝川市で行われた豪雨災害対策職員研修（市町村職員が対象）において、半日間の危機管理演習を実施した。昨年に続き 2 回目となる天塩川流域の市町村職員を対象とした豪雨災害対策職員研修が、29 年 8 月 8 日、9 日に名寄市で行われ、当財団では危機管理演習を実施した。

(2) 河川学習活動事業

- ① 砂川遊水地管理棟において、市民団体や関係機関と連携して、子どもを対象とした魚類観察会、落ち葉を利用したアートづくり、ワカサギ釣り等の河川環境学習活動を実施・支援するとともに、管理棟にある図書コーナーの子供向け図書の充実を継続して行った。平成 28 年度に砂川市在住の小学生からなる「キッズスタッフ」を立ち上げたが、29 年度は新たにメンバーを加え、来館者への説明、ワカサギ釣りイベントの参加者への説明・支援を行った。

- ② 江別河川防災ステーション等において、江別市と連携し、小学生を対象としたボート乗船による自然体験、地域の歴史や河川に関する学習活動を行った。
- ③ 夕張川において、長沼町教育委員会と連携して、魚類調査やショウドウツバメの観察、救命具をつけた川流れ体験を行った。
- ④ 戦前の台湾で灌漑事業を行った八田與一の業績を描いたアニメーション映画「パッテンライ」の上映会等を、実行委員会メンバーとして、岩見沢市と札幌市で開催した。

(3) 市民団体等支援事業

- ① 河川美化、植樹、川での子供の学習活動、川に関する地域振興や教育などの活動を行う 27(継続 20、新規 7)の市民団体等に対して、計 4,570 千円(前年度比 137.7%)の助成を実施した。また、市民団体等が実施する河川美化活動に対してゴミ袋を提供した。
- ② 「スカイスポーツフェア」、「ツール・ド・北海道」への協賛を行った。また、桂沢ダム完成 60 周年、金山ダム完成 50 周年の記念イベントの開催を支援した。
- ③ 南富良野町の高齢者大学「千里大学」参加者が、2016 年 8 月に南富良野町を襲った水害の様子を紙芝居として作成したものを、多くの人が見られるように電子紙芝居に加工し、南富良野町及び当財団のホームページにアップした。
- ④ 北海道全体の河川協力団体が参加する「集い」の開催を支援した。

(4) 河川広報事業

- ① 石狩川水系の治水事業に係る地域に密着した情報を、広く道民・地域住民に提供し、河川とその周辺地域の結び付きを深めるため、広報誌「川と人」第 41 号を発行し、ホームページに掲載するとともに、印刷して、市町村、関係機関等に配付した。
- ② 河川啓発活動や川のイベントなどの情報をタイムリーに発信するとともに、石狩川流域市町村の今をとらえた「川のあるまち」を順次アップし、ホームページの充実を図った。また、石狩川流域の町や名所の撮影を引き続き行った。
- ③ 「かわたび北海道」のホームページ作成に向け、石狩川、十勝川、天塩

川等の写真撮影を行った。

3. 受託事業

(1) 石狩川上流・天塩川上流地域連携減災対策検討業務

石狩川上流及び天塩川上流の流域活性化を図るため、河川及び河川周辺の観光資源の掘り起こしを行うとともに、天塩川流域の地域防災力向上の検討を行った。

(2) 石狩川流域連携協働推進検討業務

地域と一体となった河川管理・水防災体制の確立を図るため、河川協力団体等の地域活動団体との連携、協働体制の構築等に向けた方策の検討を行うとともに、石狩川下流域における川を軸としたツーリズムの検討を行った。

(3) 平成 29 年度河川管理施設地域活用方策外検討業務(新規)

北海道開発局所管の河川や河川管理施設を地域振興に活用するための施策を展開するうえで必要な広報戦略、地域との連携手法、観光のための戦略、防災教育への活用などについて検討を行った。

(4) 石狩川下流河川総合学習支援業務

石狩市等の小中学生や住民、市民団体に対して、学校等と連携しながら、調査船「弁天丸」や「川の模型」等を活用して、治水事業や災害の歴史、河川環境等について総合学習・社会学習の支援業務を行った。

(5) 砂川遊水地管理棟等施設管理外(滝川河川事務所)業務

治水施設である砂川遊水地管理棟の施設管理、来館者対応等を行った。

(6) 河川関連事業計画支援事業

当財団に蓄積されている河川や流域の情報を活用して、河川関連事業の計画立案を支援する業務を、札幌開発建設部本部等 10 箇所で開催した。

4. 出版事業

「生態学的混播・混植法の理論実践評価」等の書籍販売を行った。